

第4回住民会議意見概要（経済建設部会）

日時：平成28年7月21日（木）19：05～21：05

場所：役場3階 庁議室

■基本計画案に関する意見

まちづくり目標4：工夫と連携で産業が躍動するまち

1. 南風原産品を創り伸ばす農業の振興

- ・「(1) 農業基盤の強化」で、かんがい施設の整備について記載があるが、現在山川で行っている事業が終わると、その後は土地改良なども含めて基盤整備の予定はないと思う。
- ⇒施策の展開における具体的な取り組みに関する記述は、総合計画の実施計画（H29～31）で位置づけられていたものを掲載しているので、担当課に改めて確認してもらいたいと考えている。
- ・「地産地消」というフレーズは、分かりやすい表現だと思うので、「(2) 農業経営の強化」の出荷・供給体制の文章の中に、このフレーズを入れた方が良いと思う。
- ・「(3) 担い手の育成」の各種貸付事業とあるが、貸付事業だけでなく他の事業の方が多いため、「各種事業」とした方が良い。
- ・農業青年クラブは、若手の担い手の集まりで、積極的な活動をして頑張っているため、団体名を出してスポットをあてても良いのではないかと。
- ・「(4) 他産業との連携による六次産業化の推進」について、とことんこだわりをもって、調査研究し、どの食べ方が一番おいしいというものを情報発信することが重要だと思う。例えば、かぼちゃは、2週間追熟するとおいしいと言われるが、12日なのか、13日なのか、どのくらいの厚さに切った方が良いのか、どのくらいの時間ゆでたり、蒸したりするのが良いのかなど、こだわって追及し、その過程も含めて情報発信すると、それを見た人で南風原産品を購入してくれる人も出てくると思う。また、その調査研究に役場として食材費など少し支援すると手を挙げる人もいると思う。

2. 販わい・就労を創る商業、製造業、新規産業の振興

- ・現状・課題では、「情報通信産業」という表現で、「(2) 集積している産業を活かした新たな展開」では「情報関連産業」と異なる表現がされているので統一した方が良い。
- ・「(4) 企業進出の環境整備」について、取り組み内容が、とてもハードルが高いため、施策の展開のタイトルを「(4) 企業進出の環境整備の検討」としてはどうか。
- ⇒この項目は、昨年度策定した、総合戦略で位置づけられているところで、総合計画でも整合を取った形で表現している。また、記載内容としては、環境整備に向けた検討をすることとなっているので、この表現で良いと考えている。

3. 地域の連携で創る観光の振興

- ・観光で訪れた人に、どこでお金を使ってもらおうかということについて、もう少し貪欲に考えても良いと思う。そうすることで、観光協会の体制増員をはじめ、観光振興への次の投資につながっていくと思う。
- ・本町でお金を使ってもらおうシステムを考えないと、観光振興の取り組みも続かないと思う。他府県の観光地では、まちづくりの視察に訪れる人から料金を徴収するなど、様々な取り組みを行っているので、その辺も参考にしながら、真剣に考える必要があると思う。そうすることで、町内の飲食店など様々なところに波及していくと思う。
- ・観光振興を図る上で、宿泊施設を整備する予定はあるのか。
⇒観光振興計画の中では、当面は民泊などを活用した取り組みを推進し、長期的には宿泊施設の誘致などを目指すこととなっている。

4. 歴史と伝統を誇る工芸産業の振興

- ・町民が絆に親しめるような取り組みが重要になると思う。以前、役場の職員も「絆デイ」のような取り組みを行っていたので、その辺の取り組みを実施したり、学校教育においても、絆の歴史や体験学習などの取り組みを展開していくことが大切だと思う。
- ・琉球絆や南風原花織など、作っている方々の努力はすごいと思うが、外部に向けて発信する部分が弱いと思う。これまでの取り組みの、担い手育成や販路開拓等への支援も重要だが、情報発信にもっと力を入れるべきだと思う。
- ・観光との関連では、例えば、かすりロードに絆を織っている人のモニュメントを設置するだけでも雰囲気が違うので、絆の里であることのアピールをもっと展開するべきだと思う。
- ・以前、かすりロードで翔南小学校の子ども達が空手や伝統芸能を披露したり、絆の衣装を着てパレードするという取り組みが行われていたが、昨年からは、その取り組みが途絶えているので、このような取り組みを復活させることも重要だと思う。
- ・現在、本部にある空き家を芸大生に活用してもらおうことを検討しているので、アートと絆のコラボレーション等の取り組みは今後展開できるのではないかなと思う。

まちづくり目標5：みどりとまちが調和した安全・安心のまち

2. 快適で文化的に暮らせるまち

- ・「(8) 上水道の安定供給と下水道整備の促進」で、上水道の安定供給に努めるという文章があるが、上水道については、「南部水道企業団」が行っているので、記載が適切かどうか判断する必要がある。
- ・同様に、公共下水道に関する文章があるが、汚水と雨水を分けて整理した方が良いと思う。修正案も考えたので、参考にしてもらいたい。

3. 利便性のよい魅力あるまちづくり

- ・「(1) 広域交通幹線軸と連携した町内道路交通ネットワークの整備」で、自転車道に関する記述があるが、この辺の整備は県の対応となるので、このまま掲載することが適切なのか、改めて判断した方が良いと思う。
- ⇒県が整備主体になると思うが、車中心の交通から転換するキーワードとして挙げている。行政職員の中でも自転車通勤の方も増えているという話もあるので、可能性があるのであれば、町としても水と緑のネットワークとセットで考える価値はあると思う。
- ・自転車道を整備する際には、普段から自転車を利用している人の意見を聞くことが重要になると思う。
 - ・「(2) 公共交通の利便性の向上」の文章の順番について、公共交通のあり方を総合的に検討することからはじまり、次にコミュニティバスなどの検討、路線バスのあり方の検討を行い、最後に LRT 等の検討という流れが良いと思う。まずは、総合的に検討しつつ、今ある基盤の有効活用策を検討するのが良いと思う。